

第1回東アジア顕微鏡学会議 (EAMC-1)

松村 晶

九州大学工学研究院

中国、日本を筆頭にして、韓国、台湾といった東アジア諸国における科学技術や産業の発展は著しく、顕微科学研究はそのような成長をもたらす基礎科学としてこれらの国々でダイナミックに展開している。このような研究情勢を背景として、国際顕微鏡学会連合 (International Federation of Society for Microscopy, IFSM) と、その下部組織であるアジア太平洋顕微鏡学会委員会 (Committee for Asia-Pacific Societies of Microscopy, CAPSM) を基にした学会連合の上で、日本、中国、韓国、台湾の4カ国の顕微鏡学会 (JSM, CEMS, KSM, EMST) が連携して「東アジア顕微鏡学会議」の開催が計画され、その初回 (The First East-Asia Microscopy Conference, EAMC-1) が中国電子顕微鏡学会 (Chinese Electron Microscopy Society, Ze Zhang 会長) がホストとなって、重慶大学との共催の下で、2013年10月15日から18日にかけて中華人民共和国重慶市の Radisson Blu Hotel において開催された。学会の登録参加者は220名であったが、企業展示説明の方々も含めると総勢で300名を越え、当初予定した規模の参加者200名を大きく上回った。この中で日本からの登録参加者は38名を数えた。日本顕微鏡学会 (JSM) はトップレベルの会員の研究者に参加を呼びかけると同時に、風戸研究奨励会と連携して、10名の若手研究者への渡航支援を行った他、独自に4名の研究者の参加支援を行った。

会議は、10月15日午後の参加登録とレセプション・パーティに始まり、16日午前中はシングルセッションで、3件のプレナリートークと2件の米国からの招待講演が行われ

た。ここでは、日本から東京大学の幾原雄一教授が“Atom-resolved STEM Characterization of Oxide Interfaces”と題して、粒界構造のSTEMによる原子レベル観察とドーパント原子の同定、さらには粒界での転位の挙動のその場観察について講演を行った。その後に昼食を兼ねたランチョンセミナーで電顕メーカーの最新技術の発表が行われ、午後からは、B1: Material 1 (Development of Methodology/Technique for Microscopy), B2: Materials 2 (Structure/Property and Process/Characterization of Materials), C: life Science の3会場に分かれての口頭発表が行われた。さらに夕方からは、ポスターセッションが開催され、活発な議論が展開された。翌17日の午前中は3会場でB1とB2関連の発表があり、全員参加のランチョンセミナーの後、ユネスコ世界遺産に登録されている大足の宝頂山石刻へのエクスカーションに出かけ、夜は会議主催のバンケットが開催された。最終日の18日は2会場で、材料学関係の発表が終日行われたが、参加者の減少やキャンセルもほとんどなく、予定通りの日程を盛会のうちに終了した。

顕微鏡技術を研究の基軸としつつも、性格が異なる4つの学会の初めての共同主催で準備が遅れ気味で、かつ、当初複数のセッションを予定していたLife Scienceが1つのセッションになるなど、会議の構成にバランスを欠く点があり、準備段階で会議の成功が危ぶまれる場面もあったが、ふたを開けてみると会場には常に若い研究者が多く集ってフレッシュな活気ある雰囲気になっており、最後まで議論に集中した会議となった。4カ国ともに近年の顕微鏡装置・設備の充実著しく、発表に示される顕微鏡写真や解析データの精緻さにおいてほとんど遜色がなく、4カ国での学術会議を開催する意義を改めて印象づけられた。一方で、例えば回折現象を利用したような精緻な解析まで踏み込んだ内容のものは、我が国以外では少なく、顕微解析研究の深さという点で日本は優位にあり、我が国の研究の特徴であるとの印象を抱いた。

会議に先立って4カ国の学会代表者が集まり、東アジア顕微鏡学会議を今後隔年で開催することと、第2回 (EAMC-2) を2015年に日本で開催することが決議された。



図 EAMC-1 の参加者

Syo Matsumura: Short Report on the First East-Asia Microscopy Conference (EAMC-1)

〒 819-0395 福岡市西区元岡 744

E-mail: syo@nucl.kyushu-u.ac.jp

2014年2月18日受付